

科目名 Course Name	領域表現 Domain representation				ナンバリング No.	K2-006	
年次	1 年	期別	後期	単位数	2	授業形態	講義
担当者氏名	岡泉志のぶ						
連絡先(質問等)	岡泉研究室(講義棟 3 階)にて、またはメールで対応する。						
必修/選択	選択(幼稚園教諭二種免許取得は必修)						
関連 DP	DP2、DP3、DP5						
授業の概要と到達目標	<p>子どもの表現は、生活や遊びの経験から生まれる。この講義では、乳幼児の表現に関わる保育内容の変遷を知り、子どもの日々の表現に共感して豊かな表現を引き出すことを目指していく。様々な表現活動の考案や保育カリキュラムをどのように具現化して子どもたちに経験させるのか、新教育要領の領域「表現」のねらいと内容を踏まえた保育の「表現」の在り方を考える。</p> <p>この講義の到達目標は以下の 4 つである。</p> <p>① 新幼稚園教育要領における「表現」のねらいと内容について、具体的に述べるができるようにする。</p> <p>② 日常生活を通して、「表現」の考え方と事例を関連付けて、子どもの表現を考察することができるようにする。</p> <p>③ 保育現場で活かせる保育カリキュラムを計画し、表現活動の内容を立案できるようにする。</p> <p>④ 保育者としてどのように子どもの表現を引き出すのか、どのような方法や援助が適しているのかを考案することができるようにする。</p>						
授業の方法	講義では、ディスカッション、対話型を取り入れたアクティヴ・ラーニングの授業形態で総合的な実践力の習得を図る。また、教育実習で捉えた子どもの表現について事例をあげ、課題解決に向けた方法を取り入れる。						
学習成果	L01						
	L02	「表現」のねらいと内容を把握し、表現活動へ展開するために必要な保育カリキュラムを考案することができる。子どもの表現における専門的な捉え方や保育者自身の豊かな感性を身につけることができる。					
	L03	日常生活や保育の様々な活動において、子どもの表現を捉えて個々の表現を引き出すことができる。保育教材の選定や指導方法、年齢に応じた援助ができ、表現活動を展開することができる。					
	L04						
課題に対するフィードバック	事前事後で学習したことをノート・または配布資料に記入して提出後に返却する。レポート、報告書も同様、評価後、授業内にてフィードバックする。						
教科書/参考図書	教科書:保育内容領域表現 堂本真実子著 わかば社 参考書:適宜、資料と楽譜等の配布をする。						
履修上の留意点やルール等	●私語や居眠りなど授業態度が悪い場合は減点となる。●携帯電話(楽曲を調べる以外)は使用禁止、飲食厳禁である。●事前・事後学習に費やすべき時間の目安は各回 180 分とする。						
担当教員の実務経験	●実務経験(職種:ピアノ講師 リトミック含む 職歴:通算 20 年) 子どもの音楽指導経験で、年齢に応じた音楽的な表現活動の教材選定と指導法、子どもの個々の表現を引き出す視点について説明する際に活かす。						

成績評価の方法と基準					
評価の領域	評価基準	学習成果の割合			
		L01	L02	L03	L04
授業参加態度	積極的に授業に参加し、ディスカッションでは意欲的に参加する。(10 点)授業内での板書・事前事後学習ノートを作成する。(10 点)		20		
レポート/作品	幼稚園教育要領表現のねらいと内容を A4 にデザイン画として提出する。(10 点)クリスマスカード作りの作品提出をする。(10 点)		20		
発表					
小テスト					

試験	試験は筆記試験として 50 点の配点とする。			50
その他	教育実習現場での子どもの表現について考え、自身が体験して捉えた子どもの表現を報告書として提出する。			10
合 計			40	60

回数		授業計画
1	授業内容	授業概要、学習成果、成績評価、授業での諸注意、 子どもの表現を考えるー幼少期の表現における調査ー
	事前・事後学習	授業で紹介した内容を活用し、子どもの表現について考える。事前・事後学習は、各回個々のノート・配布資料で学習する。(第6回目で提出し7回目でフィードバックする)
2	授業内容	子どもの表現をどう捉えるのか①ー保育内容領域「表現」についてー
	事前・事後学習	幼稚園教育要領「表現」のねらいと内容についてデザイン画を作成①
3	授業内容	子どもの表現をどう捉えるのか②ー環境を構成する保育者ー
	事前・事後学習	幼稚園教育要領「表現」のねらいと内容についてデザイン画を作成②
4	授業内容	幼稚園教育要領「表現」のねらいと内容の捉え方
	事前・事後学習	「表現」のねらいと内容を踏まえ、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を覚える。
5	授業内容	領域「表現」と他の領域との関連性ー幼児期の終わりまでに育ってほしい姿ー
	事前・事後学習	授業で学んだことを復習して「表現」と他の領域との関連する活動事例を2つ考える。
6	授業内容	手遊びの実践と子どもへの効果
	事前・事後学習	各年齢に相応しい手遊びリストを作成する。その中から各10曲選定して実践をする。 事前事後学習ノートの提出(7回目に返却)
7	授業内容	子どもと表現①ー音楽表現ー
	事前・事後学習	各年齢に相応しい幼児曲のリストを作成する。その中から各年齢1曲ずつ選定して3曲、弾き歌いの実践をする。
8	授業内容	子どもと表現②ー言葉表現ー
	事前・事後学習	各年齢に相応しい絵本リストを作成する。その中から3冊選んで、絵本の読み聞かせを実践する。
9	授業内容	子どもと表現③ー身体表現ー
	事前・事後学習	創作ダンスとして3歳児に相応しい踊りの振付を図面化する。
10	授業内容	子どもと表現④ー造形表現ー
	事前・事後学習	素材と材料を考え、3歳児に相応しいおもちゃを作成する。
11	授業内容	子どもの表現と保育者の援助ー総合的表現活動と指導案ー
	事前・事後学習	実際に教育実習や映像から考えられる総合的な活動を考え、指導案を作成する。
12	授業内容	サンタさんへの手紙ークリスマスカード製作ー
	事前・事後学習	大切な方へクリスマスカードを贈り、その方法と自ら得たことをまとめる。
13	授業内容	表現の場としての行事と学び①ー音の発見・音楽のはじまりー
	事前・事後学習	音のはじまり、体験が生む活動についてカリキュラムデザインを立案する
14	授業内容	表現の場としての行事と学び②ー体験が生む描画・造形ー
	事前・事後学習	劇的な表現活動に繋げる環境や教材を考え、遊びに発展するための工夫や方法を構成する。
15	授業内容	表現の場としての行事と学び③ー遊びを劇的表現につなぐ生活発表会ー
	事前・事後学習	筆記試験に臨んで学習する。